

光学天文連絡会(光天連)会報No.3

1981年4月3日

光学天文連絡会事務局(京大理)発行

Group of Optical and Infrared Astronomers
(GOPIRA)

お知らせ

- ・ 4月18日(土) 午前9:00~12:00 (於)東大天文学教室
光天連暫定運営委員会
(議題は石田恵一の記事中)
- ・ 5月12日(火) 午後6:00~8:00 (於)東大天文学教室
光天連総会
- ・ 5月14日(木) 午後6:00~8:00 (於)東大天文学教室
新旧合同運営委員会
- ・ 4月末 または 5月 (日程未定) (於)京大宇宙物理教室
NGTへの技術勉強会
「ホログラフィーの技術」中島(大阪工業技術試験所)
- ・ 5月 (日程未定) (於)京大宇宙物理学教室
NGTへの技術勉強会
「Photon counting and Detector」
(阪大応用物理 講演依頼中)

暫定運営委員会の活動

石田 蕙一

光学天文連絡会の発足は、おそきに失った感があるが、ともかく1980年12月、全国的な視野に立って、議論を進める場をつくることになった。たまたまこれは、大型装置を全国計画として建設しようということがきっかけになったが、目的はそれだけではない。

私達が年々積み上げている研究活動が、10年、20年後の日本の天文学の姿に影響を与えることになる。そのことを考えて広く全国に分布する研究者が、それぞれ天文学の発展のために、わすかさず役割分担していきたい。そのために、全国の研究者間で、各種の情報交換をもっと緊密にしたいというものである。

運営委員会は、兼古昇、田村真一、石井久司、古在由秀、磯部瑋三、辻隆、石田蕙一、小暮智一、佐藤修二、佐々木敏由紀を委員として、12月シンポの席上暫定的に発足した。運営委の開催は、会員に公開となっている。したがって開催日時、場所、議題はあらかじめ会員に通知されることが望ましい。一方、旅費等の工面が、光天連としては、当面困難。そこで会報の役割が重要となってくる。

運営委は、1980年12月2日と、1981年1月6日に開催され内容は、すでに会報に掲載したとおりである。その後、光天連としての集まりは、1月6日の折に話題になったように京都で公開討論会が開催された。

京都の公開討論会

- ・1981年2月23日(月) 午後6:00~8:30
- ・於、京大理学部宇宙物理会議室
- ・出席者:(メモ帳 p.8)
- ・司会:石田
- ・報告:会報No.2、会員名簿の発行と運営委員の選与日程について(事務局)

- ・12月シンポ集録発行(小平、磯部)
- ・天文研連の将来計画小委における天文学将来計画の各論および中間報告の起草委員等について(杉本)
- ・望遠鏡WGの中間報告(西村、中井)
- ・体制問題WGの中間報告(田村、小平)
- ・国際協力WGの中間報告(寿岳、石井、小暮、代弁)
- ・アジア太平洋地域IAU meeting (1981 Aug.)について(小暮、北村)

討論:各WGの中間報告を踏えて海外に大型装置を建設するという目標が設定されたので、その計画推進とその後の運営のためにホームステーションをつくる。技術開発的研究は、天文観測と同じく重要。中口径望遠鏡でも意義ある観測的研究ができる。などの議論が行われた。

今後の予定として、今思うことは、春の年会の折、光天連総会を行う。総会への報告と提案の内容について、それ以前に運営委を開催して、議論をしたい。運営委の開催日までに、各WGの中間報告がほしい。

運営委開催は4月18日、総会は5月12日が考えられている。議案は; WGの活動について; 研究会やシンポの開催について; 大学等の研究者・院生のための研究教育実験用天体観測施設の地域センターを北大・東北大・名大等に設けることを希望する; 全国共同利用研究機関をめぐって共同利用施設を設けることを希望する。共同利用施設では、海外に大型観測装置の建設を推進することを希望する; 共同利用施設では、国内適地に適正規模の観測装置を建設することを希望する; 共同利用施設では、海外適地に適正規模の観測装置を建設することを希望する; などがあり得ると思われる。

光天連、体制問題ワーキンググループの活動内容

田村 真一

昭和55年12月に、光学天文連絡会(光天連)が、かなり広い範囲にわたる天文学研究者共通の意志として発足したことは、すでに会員の皆様には、御承知のこととと思われます。この光天連の目指すところは、日本の光学及び赤外線領域の観測天文学にとどまらず、自ずと日本の天文学界全体の発展をも望んでいるものであり、将来にわたる展望を広く、又多くの方々の寄与により、天文学の確固たる見通しの上に築くことを肝要といえましょう。

このような点から本年1月6日の暫定運営委員会において、①望遠鏡、②体制問題、③国際協力の三つのワーキンググループができたことは、当然の成り行きと考えられます。

これらの中で体制問題ワーキンググループは、9名のメンバーで問題の整理を試みています。

我々の検討の根拠とするところは、これまでの数年にわたる次期大型望遠鏡計画についての様々の討論をできるかぎり建設的に多くの研究者により、合意が得られるように、体制面から望遠鏡計画推進のため問題を整理し、必要な資料を集めることにあると思います。

メンバーの所属する研究機関が全国に散在していますので、郵便による意見の交換を行い、ひとまず考えらるべき要因をなるべく網羅するように努めました。その結果、今後の議論の土台として、要因同志の関連を考察し、その途中経過を2月24日京都で開かれた公開討論会で報告いたしました。

今後は、これらの中で特に①日本における天文学の研究活動の現状を把握すること、②研究体制、特に共同利用体制について現状を把握するため、又将来構想に役立つための資料を集めることに重点をおいて

議論、検討を深めていくつもりです。

今のところ望遠鏡ワーキンググループの進行状況を考慮しつつ、早急かつ慎重に作業を進めるよう、自分自身に言いきかせている段階にあります。

望遠鏡ワーキンググループからの報告

西村 史郎

2月19日14時～16時30分、東大天文学教室で、光学技術者と天文研究者との第1回懇談会が開かれた。天文側出席者は14名で、先ず小平桂一氏(東大理)が、光学望遠鏡に要求される性能、世界的動向と日本の現状を説明した。光学側からは、河野嗣男氏(機械技術)が、光学と天文学の協力の必要性、地上望遠鏡のゆらぎ対策の3方式(補償光学系、スペクトル干渉法、位相共役法)を紹介、大坪順次氏(機械技研):天体スペクトル干渉法、丹野直弘氏(山形大):位相共役法、世古淳也氏(電総研):チャンネルプレート、小島忠氏(小西六):レンズ設計・大光学系、西田信夫氏(日本電気):ホログラフィ・オプティカルファイバー・ITC素子(Incoherent-To-Coherent element)、などそれぞれ詳細な解説や専門分野の紹介があった。

初めての会合のこととして、光学-天文相互の間で言葉の違い、要求・関心の差(例えば「微弱光」のオーダーの差)があることがわかったが、共通の認識を形づくる一歩を進めたことに意義があった。双方から積極的な発言があり、これをもとに今後の協力を進めて行きたい。(なお補償光学系については、1月20日に東大天文学教室談話会で藤森康朝氏(東芝)が解説されている。)

光天連：開西における動きについて 佐藤修二

今後、京都として光天連の中で果すべき役割は、何だろうか、という点について 3月17日(17:30-20:00)に宇宙物理会議室で討論会が開かれました。

各機関においてそれぞれの立場で Case Study を始める時期であろう。そこで当面、京都として GOPIRA に提案するとしたら、やはり、中口径規模のものを海外に設置することであろう、との意見が多かった。

この意義として次の3点があげられた。

- ① 海外進出への経験・模索になる。
- ② 学問的な要求をかなり満たすことができる。
- ③ 将来の本格的(大口径の NGT)計画への当面の“つなぎ”になる。

これら3点において日本の光学の観測天文学に寄与できる点は、評価してもらえないのではないだろうか。しかし、現体制では困難が予想されるので、何らかの体制作りを要するであろうとの意見も多かった。

NGTに関して、GOPIRA 運営委の意志がまだ明らかでないこと、予算的な裏付けがないこと、また天文学サイドからも、まだ“夢物語”なので、今のところ、動きようがないという意見に対して、一先 NGT をめざす視察とステップは始めておかないと 10年後には依然、差は縮まらないことになる。NGT 実現のための key になる部分の検討、試作を始めるべきである、という意見があった。

○ 運営委員選挙開票 ('81.3.18) 結果

◎は、新運営委員(任期1981年5月~1982年4月)

◎ 磯部 瑠三	62票
◎ 小暮 智一	59票
◎ 田村 真一	58票
◎ 佐藤 修二	48票
◎ 小早 桂一	48票
◎ 西村 史郎	45票
◎ 兼古 昇	43票
◎ 石田 憲一	42票
◎ 市川 隆	32票
◎ 冢 正則	31票
◎ 古在 由秀	28票
◎ 清水 実	25票
◎ 寿岳 潤	25票
◎ 山下 泰正	24票
◎ 奥田 治之	23票
◎ 大谷 浩	19票
◎ 石井 久司	18票
◎ 岡村 定矩	18票
◎ 辻 隆	16票
◎ 中井 善寛	11票

投票総数 81人

投票率 60%

○メモ帳

1) 1981年2月23日(月)午後6時-8時
光天連公開討論会

・出席者

積田 大橋, 末松, 北村, 沖田, 清水^美
西野, 石田^憲, 仲野, 佐藤^英, 宮路, 前原,
山崎^篤, 小平, 石田, 小暮, 市川, 杉本,
舞原, 西村, 中桐, 田村, 長谷川^博
奥田, 市村, 磯部, 岡崎, 柴田, 大谷
中井, 岩崎.

2) 望遠鏡ワーキング・グループ会合開催記録

・東京地区

1月14日, 22日, 28日.
2月2日, 19日
3月6日

〈出席者〉

西村, 山下^泰, 成相, 富田^弘, 田中, 小平
(岡村) (清水^美) (佐藤^修)

・関西地区

・3月17日(京大理・宇宙物理会議室)

〈出席者〉

小暮, 舞原, 中井, 岩崎, 浜島, 佐藤
清水^美, 仲野, 市川, 佐木^敏, 柴田, 川良

・3月26日(京大理・宇宙物理会議室)

〈出席者〉

松浦, 川井, 山崎(大阪工^学技術試験所), 市川
中井, 清水^壇, 小暮, 仲野, 辻村, 岩崎

・3月20日 三菱電機(伊丹市)訪問
中井, 清水^美, 佐藤^修

○回覧板

・新入会者

鈴木 雅一
水野 舞
北村 正利
外山 清高
香西 洋樹
原 哲也
早坂 匡

金沢工大

"
東京天文台
北大理学部物理学教室
東京天文台
京都産業大・理学部
秋田大学教育学部
010 秋田市千代字園町1-1

・名簿訂正(下線部分)

・大師堂 経明

早稲田大学

TEL. 03(203) 4141 内 3858, 3854

・会津 晃

所属 立教大学理学部物理教室

連絡先 〒171

東京都豊島区西池袋3丁目

茨木大 → 茨城大, 茨木県 → 茨城県

*渡航

・飯島 寿

Osservatorio Astrofisico di ASIAGO
(Vicenza)

'81.3.14月間, 帰国.

・岡村 定矩

Dominion Astrophys. obs., Kitt Peak

National Obs. 3月後半に 3週間

・家正則, 小平桂一

Dominion Astrophys. obs. (3月後半の3週間)

・安藤裕康, 平田龍幸, 門正博
(8/8月末まで)

Observatoire de Paris, Section d'Astrophysique
92190 Meudon, FRANCE

・市川隆

Bosscha Observatory, Lembang (Java)
Indonesia (8/4月上旬 - 8月末)

・小野忠良

Universidade de São Paulo, Brazil.

事務局

・606 京都市左京区北白川

京都大学理学部宇宙物理学教室

光学天文連絡会事務局 小暮智一

・郵便振替口座

口座番号 京都 17558

加入者名 光学天文連絡会